

三重の木を使おう、
森を育てるために



木をよく
知ろう

木と
もっと
親しもう

木を使おう

三重の林業



新たに竣工した中勢森林組合新事務所（津市白山町）（関連記事6ページ）

目 次

2017年3月
No. 397

森 林 政 策	伐採及び伐採後の造林の届出制度の見直し	2
森 林 政 策	「伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム2020」 を策定しました	3
話題を追って	「自伐型林業のススメ」の講演会等を開催しました	4
話題を追って	林業研究所の西井孝文主幹研究員が研究功績賞を受賞！	5
話題を追って	中勢森林組合新事務所が竣工しました！	6
話題を追って	株式会社日新と県・多気町が立地協定を締結	7
話題を追って	熊野林星会が全国林業グループコンクールで林野庁長官 賞を受賞しました！	8
話題を追って	熊野サミット2016が開催されました	9
話題を追って	ドローンを活用した治山施設の状況確認	10
団体情報提供	間伐技術指導員養成研修会及び資格認定証授与式を開催 しました	11
連 載	頑張ってます！～「ええ山」づくりを目指しています。～	12
連 載	この人に聞く～第67回・(株)フォレスト伊賀 鈴木悦子さん～	14
技 術 情 報	搬出間伐の集搬作業における使用機械と生産性	16
木 材 市 況	県内木材市場市況の概況（2月）	18

伐採及び伐採後の造林の届出制度の見直し

～伐採後の造林に係る森林の状況報告が4月から義務付けられます～

三重県農林水産部森林・林業経営課

昨年5月の森林法改正により、今年4月以降に提出される「伐採及び伐採後の造林の届出」に係る森林について、伐採後の造林に係る森林の状況の報告が義務付けられました。

◆伐採及び伐採後の造林の届出制度とは

市町は市町村森林整備計画において伐採や造林の方法などを定め、地域の実情に応じた適切な森林づくりを推進しています。

「伐採及び伐採後の造林の届出制度」では、森林の伐採がこの計画に従って適切に行われているか確認するために、伐採開始日の90～30日前に森林所有者等は届出書を市町長に提出する必要があります。同時に、伐採した跡地への造林計画を届け出することも義務づけられています。(森林法第10条の8)

ただし、森林経営計画に基づく伐採の場合の届出は、伐採または造林後30日以内に提出することとなっています。(森林法第15条)

◆伐採及び伐採後の造林に係る森林の状況報告とは

今回の森林法改正で、伐採後の再造林を確保するため森林所有者等に対し、伐採した森林(間伐を除く)について、市町長に伐採及び伐採後の造林に係る森林状況報告書を提出することが義務づけられました。

(届出対象森林)

平成29年4月以降に提出された伐採及び伐採後の造林の届出に係る森林

(届出者)

伐採後の造林をする者(森林所有者等)

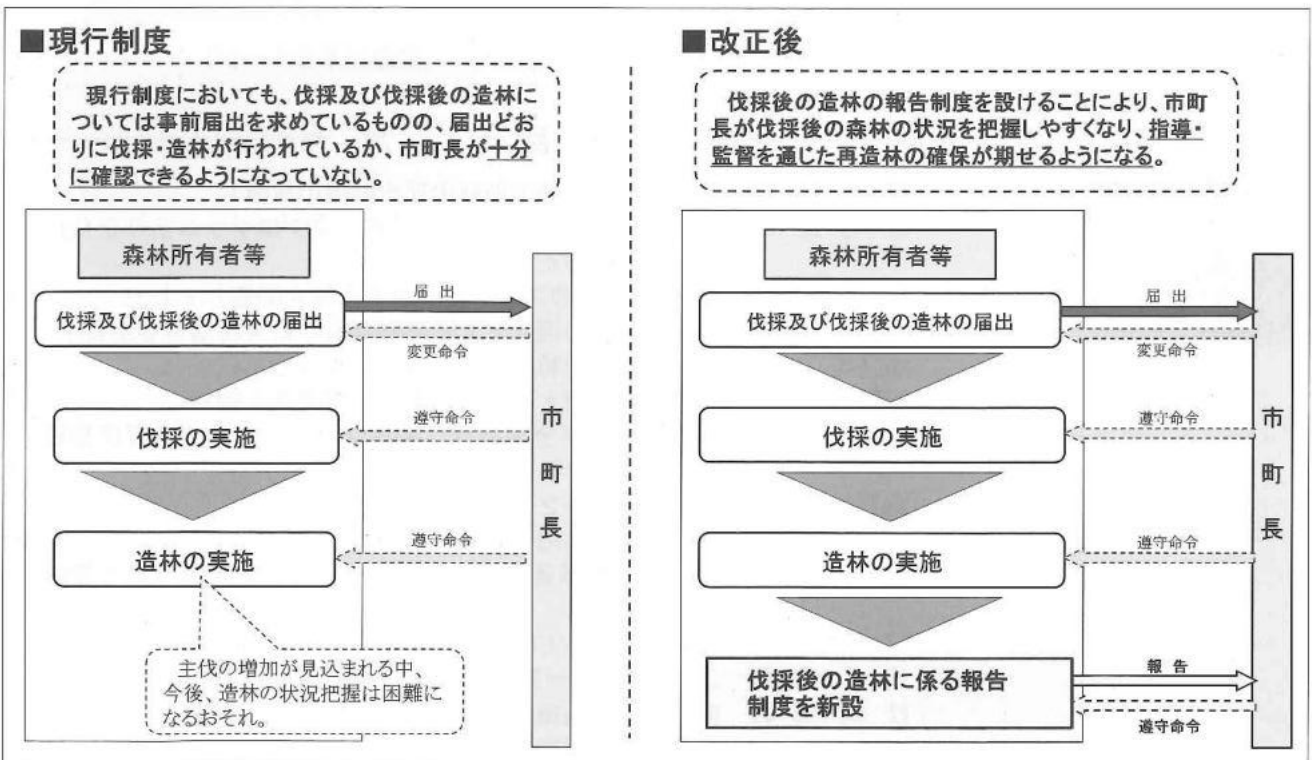
(届出時期)

造林が終わった日(伐採後に森林以外の用途に供する場合は、その伐採が終わった日)の状況について、造林が終わった日(森林以外の用途に供する伐採が終わった日)から30日以内

(届出内容)

森林の所在場所、伐採の実施状況、伐採後の造林の実施状況など

【制度のイメージ図】



「伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム2020」 を策定しました

三重県農林水産部みどり共生推進課

伊勢志摩国立公園の自然景観の保全と利用、インバウンドをはじめとする誘客に向けた取組などを取りまとめた「伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム2020」を策定しました。

◆国立公園満喫プロジェクト

2016年3月に、観光先進国へ向けた構想として政府が取りまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」において、「国立公園を【ナショナルパーク】としてブランド化」することが位置付けられました。この構想を受け、環境省において「国立公園満喫プロジェクト」が実施され、伊勢志摩国立公園を含む8箇所の国立公園において「ステップアッププログラム2020」を策定し、訪日外国人を惹きつける取組を計画的、集中的に実施することになりました。

◆伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム2020の概要

- (1) 期間 2016年～2020年
- (2) 策定主体 伊勢志摩国立公園地域協議会
- (3) 目標 訪日外国人利用者数 10万人
- (4) 基本方針

以下の視点に基づいて、訪日外国人利用者の受入環境を整備するとともに、伊勢志摩地域の人々が、国立公園に住むことに意義と誇りを持ち、自発的に魅力ある国立公園づくりを行うことを推進します。

視点1：上質な展望環境及び快適な利用環境の整備

視点2：観光資源の磨き上げによるストーリー性を持った質の高い自然体験等の提供

視点3：人々の営みと自然が織りなす優れた景観の保全

(5) 取組方針

A アクセスルートに係る取組

【取組①】アクセス道の環境整備

駅や港などの主要交通拠点やビューポイント（※）等の利用拠点を結ぶアクセスルートの景観改善、主要交通拠点の機能向上、交通アクセスの充実等を推進します。

B ビューポイントを中心とした取組

【取組②】多様な主体によるサービスの提供

伊勢志摩国立公園は民有地が96%を超えるため、民間団体等と連携しながら、ツアー・プログラムの開発など、多様なサービスの提供を推進します。

【取組③】まちなみ等の景観改善

展望地からの自然景観や、まちなみの景観を阻害する施設や広告物について、景観計画等により景観改善を図るとともに、地域住民による環境保全活動を促進します。

【取組④】インバウンド対応のための施設整備等

外国人観光客が国立公園を快適に利用できるよう、標識等の多言語化、施設のユニバーサル化をビューポイントを中心に促進します。

【取組⑤】人材育成

地域住民が国立公園に住んでいることに意義と誇りが持てるよう、地域住民を対象にした啓発活動を実施するとともに、地域資源を活用する活動団体、ガイドを育成します。

C 国立公園全体のプロモーション等に係る取組

【取組⑥】国立公園への誘導・プロモーション

ファミトリップの活用やMICEの誘致など、効果的・効率的なプロモーションを図ります。

今後は、本プログラムに基づいて各主体が取組を行うとともに、伊勢志摩国立公園地域協議会において検証、評価を行い、改善点について見直しを行います。

※ビューポイント：主要な利用拠点のうち重点的な取組を行う地域で、以下の21箇所になります。

【伊勢市】音無山、二見浦、朝熊山

【鳥羽市】神島、答志島、菅島、坂手島、鳥羽展望台、青峯山、日和山、城山公園、樋の山

【志摩市】横山園地、賢島、安乗埼灯台、登茂山、大王埼灯台、金毘羅山

【南伊勢町】鵜倉園地、南海展望公園、中ノ磯展望台

「自伐型林業のススメ」の講演会等を開催しました

三重県農林水産部 森林・林業経営課

近年、全国で注目を集めている自伐型林業を推進するために、第一人者である中嶋健造さんを講師に迎え、「自伐型林業のススメ」について講演会と現地研修会を開催しました。

◆はじめに

かつて日本のどこでも行われていた自分の山は自分で管理する自伐林業ですが、産業の変革や中山間地域からの人口流出などにより衰退していました。しかし近年、自分の山のみならず他人の山の施業を行う自伐型林業が再び注目を集めています。

自伐型林業の活性化により、森林を所有する方もそうでない方もみんなが参加して山から木を伐り出して収益を得る。そのことで地域も人も山も元気になると期待されています。

県においても、この自伐型林業を推進するため、全国に先駆けて自伐型林業の復権を提唱したNPO法人自伐型林業推進協会代表理事でありNPO法人土佐の森・救援隊の理事長である中嶋健造さんを講師にお招きし、平成29年2月26日(日)に度会郡度会町内において「自伐型林業のススメ」の講演会と現地研修会を開催して、自伐型林業を推進する意義や自伐型林業に取り組む際のノウハウについてご講演いただきました。

◆講演会では

度会町にも協力いただき、度会町役場保健センターを会場に午前10時から「真の林業再生と、地方創生のカギ『自伐型林業』」と題して講演いただきました。講演会には約60名の方が参加され、熱心に講演に聞き入っていました。

講演では、「イラっとする日本の林業問題」として数々の林業の課題を分かりやすく説明いただき、森林の適切な管理を行う森林経営や林業の再生には自伐型林業が重要な役割を担っていることや、自伐型林業が活性化することで中山間地域が元気になり、地方創生につながっていくことなど、時折笑いも含めお話いただきました。

自伐型林業は、低コストで実施できることや業としても十分成り立つこと、素人でも研修を受ければ十分実践できることなど、明るい話題でした。しか

し、作業道の整備が重要で、山を荒らさない道づくり(幅2.5mなど)を初めにしっかり行う必要があるとのことでした。また、専門も可能ですが、ほとんどが農業や観光などと兼業で行うことが多いなど、全国の事例を紹介しながらの分かりやすい説明でした。明るい日本の林業の将来像を見た気分になりました。



講演会の様子

◆現地研修会では

昼食の休憩を挟み、午後からは場所を度会町内の一之瀬県行造林に移し、「林内作業車と『土佐の森』軽架線キットを用いた集材研修」を実施しました。

研修の都合により人数を限らせてもらった結果、職員も含め約40名が参加し、「土佐の森方式」といわれる軽架線による木材の搬出作業を体験しました。

土佐の森軽架線は、1本の主索を張り、搬器を使うだけのシンプルな構造で、林内作業車のウインチを利用して伐採木を集積・搬出することができます。また、主索の下の材だけでなく、横取りも可能なのが特徴です。

中嶋さんの指導の下、研修参加者自らが架設を行い、林内作業車を操作して、既に伐倒してある木材の搬出を行いました。初めは、1本ずつ搬出していましたが、慣れてくると2本まとめて搬出するようになりました。

研修参加者の間では、普段の活動の中でどう活かしていくかを話し合っている方や中嶋さんへ技術的な質問を行っている方もいました。



現地研修会の様子（搬器）

研修では架設に30分程度で、4mの木材を13本搬出（集材距離約15m）するのに90分程度、撤去するのに15分程度と、慣れていなくても扱い易い印象を受けました。

研修後にアンケートを実施したところ、「とても分かりやすく、役に立つ研修でした。」「森林整備にやる気が出た」との意見を多数いただきました。

これからも、多くの方が自伐型林業にチャレンジしてもらえよう、県としても取り組んでまいります。



現地研修会の様子（林内作業車）

話題を追って

林業研究所の西井孝文主幹研究員が研究功績賞を受賞！

三重県林業研究所 佐野 明

林業研究所の西井孝文主幹研究員が、平成28年度全国林業試験研究機関協議会研究功績賞を受賞し、今年1月26日に東京大学弥生講堂で開催された第50回森林・林業技術シンポジウムにおいて表彰されました。同協議会は全国の公立林業試験研究機関によって組織され、毎年、総会と併催されるシ

ンポジウムの席上、試験研究に著しい功績があった研究者を表彰しています。

西井主幹研究員が、20年以上の長きにわたり積み重ねてきた食用きのこの人工栽培技術に関する研究成果や、生産者に対する懇切な指導が高く評価され、栄えある受賞となりました。



全国林業試験研究機関協議会会長から表彰状を授与される西井主幹研究員



研究功績賞を受賞されたみなさん

中勢森林組合新事務所が竣工しました！

～中勢地域の林業の新しい拠点施設としてさらなる飛躍を～

中勢森林組合 山崎昌彦

去る、平成29年2月10日(金)に中勢森林組合新事務所の開所式典が開催され、ここに、組合役職員の念願であった新事務所が竣工しましたので、その概要等について紹介します。

◆新築に至った経緯

組合旧事務所は、昭和47年6月30日の広域合併以来、42年が経過し、(合併時、本所は津市美杉町竹原にあり、旧事務所は、中勢森林組合白山支所として使用されていました。また、合併以前は、白山町森林組合の事務所に使用されており、正式な築年数は不明です。)そのため、建物・設備等の老朽化と狭隘化が著しく、旧事務所の建物は、現在の耐震基準に満たないため、職員・地域住民の安全確保と中勢地域の林業の新しい拠点施設として、組合員の皆さんへのサービスの向上を目的に事務所の新築に着手することになりました。

◆事務所の施設概要等

■構造規模概要等

在来工法純木造2階建て、延べ床面積482.78㎡(1階床面積370.99㎡、2階床面積111.79㎡)となっており、津市産材のスギ、ヒノキ(23.24㎡)を使用しています。【全景は表紙参照】

また、エントランス打合せスペース、廊下部分、組合長室兼応接室には、津市木材利用促進ネットワーク「きつつきブランド」の商品(森のベベルタイル、森のボーダータイル)を来所者の方への商品PRも兼ねて施工しており、来所された方から、その斬新なデザイン、形状等に大変興味を持ってもらっています。



組合長室兼応接室

■設計・デザインコンセプト

新事務所の設計、デザインコンセプトとして、街並みにマッチした形状になるよう考え、外壁、形、色等が、土地、風土になじむよう設計されています。新事務所の外観正面の右側は津市産材の杉をふんだんに使用し、杉の丸棒の美しさとやわらかさを強調したデザインとしており、エントランス打合せスペースについては他より天井部を高くして、限られた面積の中でいかに広く、開放的に感じさせられるか工夫がなされています。

また、事務所スペースは通常より大きな窓を設置する事により、十分な光が差し込み、明るい室内となっており職員が気分良く業務を行なえるようになっています。



打合せスペース

◆中勢地域の林業の新しい拠点施設としての役割

私たち森林組合職員は、中勢地域の林業が活性化され、組合員の理解の元、森林の管理を適正におこない、森林が持つ多面的機能が十分発揮され、豊かな森林が保全されていくよう努めていくとともに、出口対策として、地域の森林から搬出された木材が有効に活用されていくよう行政、企業、組合員に働きかけていく重要な役割があります。

その情報発信の窓口として、この新事務所を最大限に活用していきたいと考えています。また、当組合の会議室等は地域の組合員に森林・林業に関する意見交換会の場として開放し、地域の森林の健全化と林業の活性化に向けて地域ぐるみで推進していきたいと考えています。

株式会社日新と県・多気町が立地協定を締結

～紀伊半島初となる合板工場が立地します～

三重県農林水産部 森林・林業経営課

平成29年2月1日、県と多気町が、平成30年4月から同町内で合板工場を稼働させる株式会社日新と立地協定を結びました。

◆株式会社日新の概要

株式会社日新は、現在5工場（鳥取県境港市：2工場、島根県松江市2工場、徳島県小松島市：1工場）を有し、合板製造・販売を通して、地域経済の発展、木材資源の再生産・有効活用、木の文化の継承及び低炭素社会の実現に貢献すべく積極的な取組を進めています。

生産品目としては、住宅資材の構造用合板を主に製造していますが、合板業界を取り巻く急速に変化する事業環境を鑑み、非構造用合板の生産力を強化するため、新工場の建設が計画されました。

(株)日新新工場の概要

工場所在地	多気郡多気町
生産能力	月産 6,000 m ³
生産品目	非構造合板 (フロア台板、内装用合板、塗装型枠用合板)
原木消費量	年間 103,000 m ³
工場稼働時期	平成30年4月予定
工場従業員数	約45名
総投資額	工場建設・機械投資 約70億円

※フロア台板：フローリングの基材となるもの



立地協定締結式

◆原木の安定確保に向けて

新工場で使用する年間10万m³を超える国産材の安定調達に向け、主に紀伊半島地域の木材市場、森林組合、素材生産者と、日新との間で原木安定取引協定が締結され、主に3つの木材供給ルートが確立されています。

- ①三重県内の木材市場（6市場）を通じた9府県76素材生産者からの供給
- ②三重県外の木材市場（4市場）を通じた上記以外の57素材生産者からの供給
- ③三重県森林組合連合会を通じた県内の9森林組合からの供給

◆合板工場の概要

新工場は79,483 m²の敷地内に床面積16,691 m²の工場を建て、「フロア台板」の生産に重点を置く非構造用合板専用工場として計画されています。

最新の充実した設備と自動化率を高めた生産ラインを導入し、紀伊半島一円のヒノキ・スギを活用した非構造用合板の生産・販売を行います。非構造用合板は、輸入製品が大きなシェアを占めていることから、国産材合板への切り替え需要を狙っています。

◆合板工場立地の波及効果

国産材利用率100%の合板工場の稼働に伴い、約45名の雇用の場が創出されるほか、三重県を始めとする紀伊半島全域の森林資源が活用されることにより、素材生産量の増加が見込まれ、林業及び地域の活性化に繋がることを見込まれています。

また、株式会社日新では、独自の再造林支援に向けた助成制度の創設が検討されており、「木を植え、育て、伐って利用し、また植える」といった森林資源の循環利用の促進への貢献についても期待されます。

熊野林星会が全国林業グループコンクールで 林野庁長官賞を受賞しました！

熊野農林事務所 林業普及指導員 山本和史

熊野林星会の活動が認められ、全国林業グループコンクールで林野庁長官賞を受賞しましたので、その報告をします。

◆熊野林星会の概要

熊野林星会は、昭和63年に木材産業の川上にあたる造林保育のグループと、川下にあたる製材業者のグループが合併し誕生しました。

その際に木材の運搬業者、建築、設計業者などが加わり、森林や木材に関わる様々な職種で構成された団体となっています。

現在、会員の平均年齢は52歳と、林業研究グループとしては比較的若いのですが、熊野林星会が誕生した後に新会員が加入することもほとんど無く、少しずつですが会員の高齢化が進んでいる状況です。

◆近畿ブロック林業グループコンクールでの発表

平成28年8月9日に、大阪府で開催された「平成28年度近畿ブロック林業グループコンクール」で、熊野林星会は三重県代表として活動報告を行いました。

熊野林星会の野地伸卓会長により「熊野生道 どれが熊野の生きる道」と題した活動報告が行われました。発表に際して、近畿府県からの参加者が集まっていることもあり「熊野とは？」というところから発表が始まり、七里御浜や熊野古道といった観光の名所の紹介、そんな中で熊野の山や林業に関する説明がありました。

その後、実際に熊野林星会が行っている活動について写真を交えての報告が続きました。地元の大工さんと連携して実施した、地元の木を使った親子の木工教室や木の町熊野木工コンクールを実施し、地元で木に触れることの大切さを感じられる活動についての報告が行われました。

また、新たな価値として、熊野にある日本最古の神社といわれている花窟（はなのいわや）神社にて、家を建てる際の大黒柱を祈祷する「大黒柱入魂祭」を実施し、観光客を媒体として熊野の林業や木材をPRする活動を実施していることが報告されました。

他府県の林業グループの様々な活動が報告される

中、熊野林星会の活動内容が評価され、「平成28年度全国林業グループコンクール」に近畿ブロック代表として活動報告を行うことになりました。

◆全国林業グループコンクールでの発表

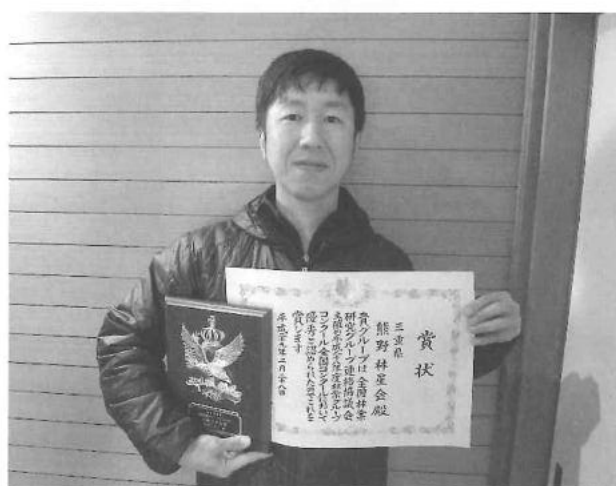
平成29年2月27、28日に、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）にて「平成28年度全国林業グループコンクール」が開催されました。

近畿ブロックで代表となった熊野林星会と同様に、全国の各ブロックで代表となったグループが発表する場となります。全国の代表の集まりということもあって、各グループの活動内容も各地域の状況に合わせた内容や、独自に工夫を凝らしたものとなっていました。

また、発表自体も非常に熱が入った発表が多く、活動に誇りを持って熱心に行われている事がよく伝わってきました。

熊野林星会の野地会長も熱心な発表をされて、最優秀にあたる農林水産大臣賞はどこが受賞してもおかしくない、といった印象を受けました。

結果として熊野林星会は残念ながら農林水産大臣賞を逃しましたが、林野庁長官賞を授与されることとなりました。



林野庁長官賞を授与された熊野林星会野地会長

今回のコンクールで他のグループの発表を聞き、色々とするものがあつたのではないのでしょうか。

熊野林星会の今後のますますの活躍に期待したいと思います。

熊野サミット2016が開催されました

三重県熊野農林事務所 林業普及指導員 山本 和史

平成28年12月10日に、県熊野庁舎にて熊野材推進協議会主催の「熊野サミット2016」が開催されましたので、その模様をお知らせします。

◆熊野サミット2016開催に至る経緯

「この熊野の地には、いくつもの大学がフィールドワークに入っているにも関わらず、接点もないままそれぞれで研究を進めている」

熊野材推進協議会と早稲田大学高口研究室（建築学専攻）が共同で熊野地域の林業振興を進めていく方法を検討している中、そのような現状が浮かび上がりました。

それを受け、各大学や各団体がこの熊野地域でどんな活動をしているのか、互いに情報を共有し繋がりを持つことを目的として今回の「熊野サミット2016」は開催されました。

林業普及指導員として、この地域の林業振興を進めていく活動の延長上にこの熊野サミット2016があると考え、その活動に協力することにしました。

◆熊野サミット2016の内容

今回、主催は熊野材利用推進協議会、運営主体は早稲田大学高口研究室という形で進められました。

プロジェクト発表については、NPO法人IVUSA、京都大学、近畿大学、相模女子大学、名古屋市立大学、三重大学、早稲田大学が行い、それぞれの研究課題や活動内容が発表されました。

ポスターセッションも併せて実施され、商工会議所や観光協会、また学童保育を行っているNPO法人等の参加もあり、多種多様な顔ぶれとなりました。林業普及指導員という立場から、この地域で活動している各大学、各団体の取組がこの地域の林業とどう関係しているのかの視点に立って内容を簡単にお伝えしたいと思います。

近畿大学建築学部建築学科住宅計画研究室が行っていた、＜コウノイエ＞プロジェクトは、熊野市神川町内の古民家をセルフビルドで再生する内容であり、その修復にあたり地元の熊野産のヒノキを大いに活用したのとなっていました。

また、京都大学は「地域に学ぶ」と題したフィー

ルドワークを実施しつつけており、その中で山村の記憶を伝えるべく、杉皮剥ぎの技術を映像で残したり、木挽き歌の音響保存などの活動を実施していました。

地元三重大学は木質バイオマスの地域循環システムを目指した研究を行っており、林業のこれからのに向けたヒントとなる内容でした。

今回運営主体となった早稲田大学高口研究室は、これまでに実施した熊野材を利活用するための様々な調査研究や活動を発表していました。

他のプロジェクト発表についても、林業という視点で見ると色々と発見のある内容でした。



参加者による集合写真

◆今後について

今回の結果は参加者約100名と大成功で、参加者からは非常に面白かったという声が多数あがったこともあり、来年も引き続き開催される予定となりました。

林業普及指導員としても、今回の熊野サミットを契機に学童保育を行っているNPO法人から林業体験に関する相談を受けるきっかけにもなり、また近畿大学の＜コウノイエ＞プロジェクトで再生された古民家を、今後の普及活動に生かすべく見学させてもらう予定にしています。

今回のサミットはきっかけづくりであり、本当の成果が出るのは次回以降になるかと思っています。そのような中で生まれた新しい動きが、この地域の林業振興の一助となることに期待しています。

ドローンを活用した治山施設の状況確認

伊勢農林水産事務所 山口和昭

三重の林業（2016年9月号No.394）で「ドローンを利用した架線の架設について」紹介されましたが、今回は、ドローンを活用した空撮により、治山施設の状況確認を行ったので紹介します。

◆目的

度会郡大紀町大内山字池ノ谷越地内に平成16年度から平成18年度にかけて施工した治山施設（土留工）の現在の状況を確認するため、平成29年1月13日（金）にドローンにより空撮を行いました。

◆ドローンの活用に至った経緯

当初は、林道中ノ又線の終点から徒歩で約1時間かけて現地へ行き、治山施設の状況を確認する予定でした。しかし、施設は、施工後10年以上を経過していることから、周辺の樹木の繁茂等により施設の確認が出来るかどうか、また、施設周辺を含めた全景の状況についても確認出来るかどうか分からない中で、確認方法について検討していたところ、三重の林業9月号で紹介されたドローンによる空撮が有効ではないかと考えました。早速、林業ドローンの技術開発を実施されている、上道キカイ株式会社（和歌山県新宮市）へ依頼したところ快く承諾いただき、実施することとなりました。

◆撮影の方法

今回の撮影では、小型ドローンとズームアップが出来る中型ドローンの2台を用意していただき、両方の機体で撮影をお願いしました。



撮影に使用したドローン（左：小型、右：中型）

飛行起点は、林道中ノ又線の終点から約200m奥の治山仮設道の終点とし、高度約150mからの撮影を行いました。

◆撮影結果

小型ドローンによる撮影では、遠景での確認は出来るものの、現地までの距離が長かったことから、近景の撮影までは出来ませんでした。

中型ドローンは、飛行に安定感があり、撮影画像が良好なことに加え、ズームアップ機能が付いているため、対象施設を明確に撮影することが出来ました。

中型、小型ドローンとも確認したい箇所へ自由に移動しての撮影が可能であり、録画した動画を必要なシーンで静止させ、静止画として取り込むことが出来ます。今回は、下記写真のとおり、治山施設の状況を確認することが出来ました。



治山施設（土留工）の状況

◆今後の活用方法

ドローンの活用については、色んな分野で検討されていますが、林業関係での今後の活用方法として、災害調査（治山施設、林道施設）や、計画箇所の全景写真、植栽用資材の運搬（大型ドローンで20kgまで可能）、植栽後の生育状況の確認等が考えられます。特に林道や作業道から離れた箇所の状況確認等を行う場合は、業務の効率化を図る上で大変有効であると思いました。

◆おわりに

撮影にご協力戴きました、上道キカイ様にお礼を申し上げるとともに、今後とも林業ドローンの技術開発にご尽力をいただきますようお願い申し上げ、紹介とさせていただきます。

間伐技術指導員養成研修会及び資格認定証授与式を開催しました

三重県間伐等推進対策協議会

去る平成28年10月20日から27日の延べ5日間にわたり、三重県教育文化会館、松阪飯南森林組合、松阪市内山林において、間伐技術指導員養成研修会を開催しました。

間伐指導員養成研修会は、森林法施行令第2条の2の森林整備保全事業を実施する者として、県内の間伐・枝打ち等の促進対策の円滑、かつ適正な推進と技術の向上を図るために必要な実施体制を整備し、関係行政機関及び関係団体等との密接な連携のもとに、効果的な運営を図ることを目的に設置された「三重県間伐等推進対策協議会」が開催する研修会で、効率よく間伐・搬出等ができるよう、計画立案・実行するためのスタッフを養成することを目的に、平成11年より始まり、今回で9回目を数えました。



研修状況

今回実施した研修カリキュラムは、

- ① 林業労働安全に関する知識
 - ② 目標林型と育林技術
 - ③ 間伐の方法と密度管理
 - ④ 提案型集約化施業
 - ⑤ 間伐コストの管理
 - ⑥ 高性能林業機械の作業システム
 - ⑦ 森林計画制度
 - ⑧ 森林整備事業
 - ⑨ 素材の規格と価格（現地研修）
 - ⑩ 森林資源調査（現地研修）
 - ⑪ 環境保全と植物性チェーンオイルの使用について
- で、最終日には修了試験を行いました。

今年度の研修会は、県内の林業事業者から11名に受講していただき、修了試験の結果7名が合格されました。



授与式記念撮影

合格した受講生の方には、平成29年1月19日に三重県総合文化センターにて開催された、間伐技術指導員資格認定証授与式において、修了証及び資格認定証を授与し、現在登録されている110名の間伐技術指導員の仲間入りをしました。

このたび間伐技術指導員となられた方におかれましては、三重県の森林・林業・山村活性化の担い手となるべく、今後ますますのご活躍を祈念いたしますとともに、今回の研修会にご協力いただきました関係者の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

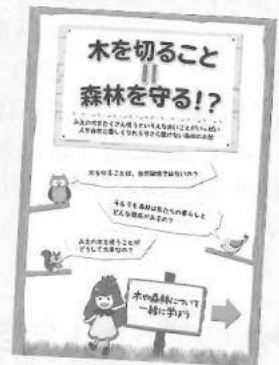
お知らせ

パンフレット

木を切ること=森林を守る!?

県民のみなさんに、「みえの木」を使っただけで、三重県の森林を守ることにつながることを知っていただきたく、この度、パンフレットを作成しました。

「みえの木」を積極的に利用し、三重の森林を元気にしましょう!



◆ 三重県農林水産部 森林・林業経営課

頑張ってます！ ～「ええ山」づくりを目指しています。～

安田木材有限会社 小柳 義久

林業・木材産業に携わりながら、地域で頑張っている方を紹介する「頑張ってます」のコーナーには、亀山市加太地域の林業事業体で働く小柳義久（こやなぎ・よしひさ）さんに登場していただきます。



安田木材㈱の小柳さん

◆自己紹介

私は以前、名古屋で主に高層ビルの建設現場の作業員として働いていました。高い足場を渡り歩きながらの仕事でしたが、そんなある日、ビルの5階の高さから転落し、11か所骨折をする大きな怪我をしてしまい、仕事を辞めざるを得なくなりました。

そして、約半年間の入院生活を経て次の仕事を探す際、現場の仕事を離れて事務系の仕事に移ることも可能でしたが、「やっぱり、外で体を動かす仕事がしたい。」と言う思いもあり、8年前に亀山市の加太地域で林業を営んでいる安田木材㈱に就職しました。

◆過酷だった1年目

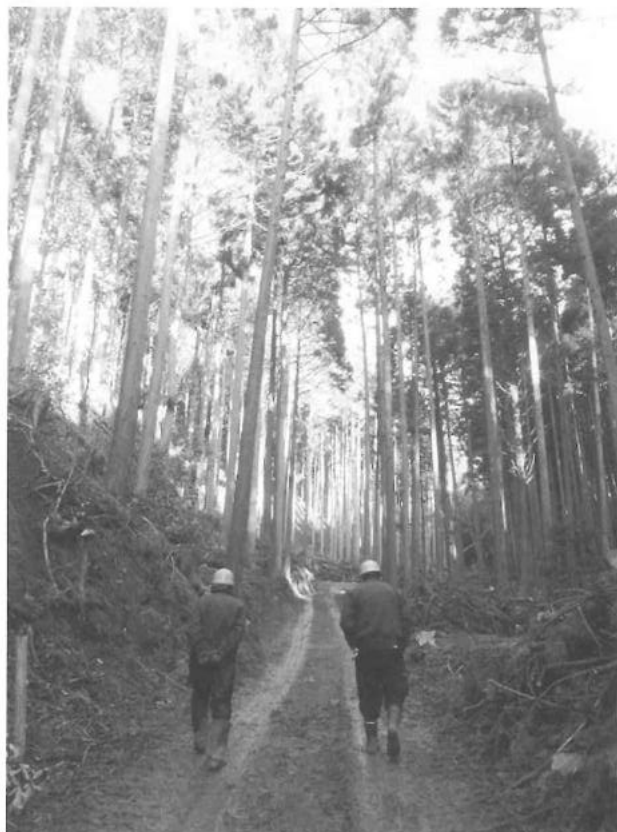
これまで、建設現場で働いてきたので、体力にはある程度の自身はありましたが、平らな建設現場とは違って、山には傾斜があるし、石や転石それに倒

木があったりと、とにかく足場が悪くて、「平坦なところと山の斜面ではこんなにも疲れ方が違うものなのか?!」と思いました。

また、チェーンソーを使うのも初めてで、誤って自分の足を切ったこともありました。それでも、後になってよくよく思い返してみると、自分が安全確認を怠っていたり、注意されていたことを守らなくてケガをしてしまったことに気づき、深く反省させられました。

◆山は多種多様……だから楽しい。

建設現場では、図面通り、仕様書通りに仕事をこなしていけばよかったのですが、山の仕事は違いました。木、1本1本が違いますし、現場の様子も毎日変化します。だから、昨日と同じように仕事をしていたは上手く行かず、毎日現場や木を見て判断していく必要がありますが、それも、林業の楽しさだと感じます。



現場にむかう小柳さん



重機に乗り込む小柳さん

◆グラップルのオペレータとして

自分が就職してから1年ちょっと経ったときに、職場にプロセッサが入って、仕事の仕方がガラッと変わりました。

キツかった枝払いや玉切りと言った造材作業をプロセッサがしてくれるようになったので、体力的にも余裕ができましたし、作業効率もグッと上がりました。

また、仕事のやり方も、作業員が個別にチェーンソーで木を伐っていくのではなく、班を組んで役割分担をし、チームプレーで作業をするようになりました。

そして、この頃から自分は重機の操作を任されるようになりました。重機に乗るのは初めてでしたが、すぐにコツをつかむことができ、今ではグラップルで木を集材したり、積み込みをするのが自分の主な仕事です。

重機に乗っていて一番気を遣うのは、チェーンソーを持って作業している同僚にケガをさせないことです。常に、同僚がどこにいるかを確認しながら仕事をしています。



器用に重機を操作する小柳さん

◆山の上で食べるお弁当は最高！

普段は、お昼の時間にいったん山の入り口まで戻って来て、お弁当を食べることが多いのですが、時にはお弁当を持って山に入り、山の上でお弁当を食べることもあります。景色が良くて、これがとっても気持ちよくて最高です。

春先の山が自分が一番好きですが、どの季節も、山に入ると清々しい気持ちになれて、とてもいい環境で働いていると感じています。



打合せをしている様子

◆新しい仲間がほしい。

間伐作業が終わった後に、安田社長から「『ええ山になった。』と森林所有者さんも喜んでおったわ。」と言われると、「自分は山のためにいい仕事ができたと！」と実感がわきます。

今の職場では、自分が一番若手になりますが、若い子にも入ってきてもらって、一緒に山の仕事がしたいと思います。

イベント情報

伊勢志摩国立公園 ナショナルパーク化キャラバン

「伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム2020」の説明会と映画「うみやまあひだ」の上映会を同時開催

◆開催日時・場所

- 3月18～20日 神宮徴古館（申込み不要）
- 3月21日 皇學館大学7号館721会議室
- 3月22日 横山ビジターセンター
- 3月23日 鳥羽市民文化会館3階中会議室
- 3月24日 南伊勢町 南勢庁舎3階会議室

◆申込み・問い合わせ

三重県農林水産部みどり共生推進課まで
TEL 059-224-2627

この人に聞く ～第67回・(株)フォレスト伊賀 鈴井 悦子さん～

聞き手：伊賀農林事務所 林業普及指導員 中村 有介

今回ご登場していただくのは、伊賀市北山に拠点を置き、伊賀地域を中心に年間3,500㎡の素材生産を行っている(株)フォレスト伊賀の取締役副社長の鈴井 悦子さんです。女性の視点から見た林業についてもお話をお聞きしたいと思います。

それでは、よろしくお願いいたします。

Q 自己紹介をお願いします。

A 私は、平成15年4月1日(株)フォレスト伊賀の設立時に事務職として採用されました。設立して15年目を迎えますが、気がついたら職員の中で一番長く勤務しています。



(株)フォレスト伊賀 副社長 鈴井さん

Q 勤務されている(株)フォレスト伊賀の紹介をお願いします。

A (株)フォレスト伊賀は、山で働く作業員の高齢化と地域林業の衰退によって素材生産量の伸び悩みの中、林業に従事する若者を育成し「伊賀の山を守っていく」こと「伊賀地域にある原木市場への原木安定供給を行う」という2つの目的を掲げて設立されました。

現在、宮協会長と東社長を含めて9人の職員がいます。今年の2月には新たに1名の採用が決まっています。

弊社も設立から15年目を迎えますが設立時は、他の素材生産業者の中で仕事を取るため大変な苦勞

をしましたが、地域の方々の応援に支えられながら中堅クラスの事業体まで成長することができました。

Q 現在どのような仕事をされていますか？

A 主に経理と庶務の仕事をしています。時々、他の職員と一緒に山に行って山林調査も行っています。また、頻りに訪れるお客さんの対応と職員への連絡調整等も行っています。

県や市から受ける補助金関係の書類作成や行政機関との調整も行います。ほとんど裏方の仕事を全部引き受けています。小さい会社のため外回りに入る用事も一人でこなしています。

Q 職場を支える側として苦勞されている点や女性の視点から見た林業(木)の魅力をお話してください。

A 会社を立ち上げてから、事務所に来られるお客さんである林家の人や製材業者の人などが気軽に事務所に来て頂けるような環境づくりに努めました。まずはお客さんに会社を知ってもらうこと、そしてお客さんから地域の林業の情報を沢山吸収したいと日頃から心掛けています。

そして何より大切なことは、職員が現場で事故に会わずに無事に帰って来てくれることです。

毎朝、現場に出る職員の表情は必ず確認するように心掛けています。少しでも元気のない表情があれば、社長や先輩職員を通じて話し掛けたり、私自身も声を掛けコミュニケーションをとるようにしてアットホームな職場を大切にしています。



執務中の様子

私自身から見ると林業に携わっている人は、格好いいと思います。山の中で仕事をしている弊社の若い職員を見てみると実に格好良く見えます。林業は危険な作業の連続です。決して同じ現場はありません。そんな中できびきびと働く姿は、「すごい」の一言につきます。

林業の大きな魅力は同じ現場がないこと、例えば、木材を搬出する方法も現場毎に違います。

架線を使う場合もあれば森林作業道を作設して林業機械を使って搬出する現場もあります。

技術が進歩して近代化されても携わる人間の経験と伝授された技術と知識が試される世界です。

Q 新規就労者の獲得に毎回、就業・就職フェアに参加されている中で、人材確保のポイントや苦労した感想などをお聞かせください。

A 一番大事な点は、性格を重視します。現場ではチームワークが大切です。チームワークを重視する人であるかどうかが採用の基準です。

また、健康であること、そして山が好きな点も大切な採用基準です。

三重県農林水産支援センターが開催する就業・就職フェアに毎回参加しますが、年々弊社が望む人材が来なくなってきたと感じます。

若い人は農業や水産関係のブースに集まるのですが林業関係のブースにはなかなか来てくれません。過去には、就職しても直ぐに辞めていく人もいたりして、どのように引き続き仕事をしてもらえるのかを幾度となく会長や社長も含めて職員同士で話しあったこともありました。



就業・就職フェアに参加している様子

Q 昨年、役員（副社長）になられ会社経営にも参加されるようになった中で、今後の抱負を教えてください。

A 設立時の理念である「伊賀の山を守りたい」「伊賀地域にある原木市場への原木安定供給

を行う」を基本に堅実な林業経営を続けていきたい。また、現在、木材が自然エネルギーの一端を担ってきている現状を視野に入れた林業経営も併せて考えつつ少しでも職員に還元できる様に努力していきたいと思っています。



作業中の様子

Q 最後に読者に伝えたいことをお願いします。

A 年々、林業の中に女性が進出しやすい雰囲気になってきていると思います。例えば「緑の雇用」の研修事業の中に、女性に配慮した研修環境整備（簡易トイレ、簡易休憩所のレンタル料）に対する助成経費があります。また、高性能林業機械の普及により操作を覚えて経験さえ積めば女性でも十分に現場で仕事ができますので、今後とも行政や関係団体もより一層支援を広げて欲しいと思います。

また、山で働く人の高齢化は進んでいますが、弊社のように若い人が林業の世界に飛び込んで一生懸命汗を流して働いているところもあります。

まだまだ林業は捨てたものではありません。

是非、林業で働く女性と若者を皆さんで応援してください。

～鈴井さん、ありがとうございました。～

お知らせ

4月1日～5月31日は
春期緑の募金運動期間です。

「緑の募金」に
ご協力をお願いします。

(公社) 三重県緑化推進協会



搬出間伐の集搬作業における使用機械と生産性

林業研究所 野村 久子

◆はじめに

効率的な森林整備を行うための集約化施策が推進され、それに伴い各地で機械化と作業道の整備が進められています。県内の高性能林業機械保有台数は平成27年度末時点で102台（平成20年度末の約2倍）、既設作業道延長は平成27年度末時点で約105万m（平成20年度末から約32万m増）となっています。徐々に森林整備のための基盤が充実する中、これらをいかに効果的に活用していくかが重要です。

林業研究所では県内に導入された高性能林業機械等の工期調査を行い、作業条件からの生産性予測や、機械の効率的な活用について研究を行っています。今回はその中から、集搬作業についてご紹介します。



図-1 フォワーダによる集搬作業状況

◆集搬作業の使用機械

集搬作業とは木材の集材搬出作業で、作業道または林内に集積された材をトラックの入る林道端や土場等まで運搬する作業工程です。地形に合わせて作設される森林作業道では、フォワーダのように登坂能力に優れた木材運搬車両が必要とされ、フォワーダは県内に最も多く導入されている高性能林業機械です（高性能林業機械102台中37台がフォワーダ）。しかし、フォワーダは林内作業用の特殊車両であるため公道を走ることができません。そのためトラックが入れる施業地付近の山林に、木材を一旦仮置きする“山土場”が必要となります。

また、山土場から中間土場や市場まで材を運ぶ工程を運材作業といいます。集搬作業に必要な山土場を確保できない地域では、公道も走行可能な2tトラックを使用し、施業地から中間土場や市場まで材を直送していました。集搬作業と運材作業を合わせたような作業ですが、集搬作業の特殊な事例といえます。そこでこの2つの集搬機械について現場条件と生産性の関係を明らかにするための時間観測調査を行いました。



図-2 2tトラックによる集搬作業

◆集搬作業の作業工程

林内での積込み作業および土場での荷下ろし作業をビデオカメラで撮影し、要素作業分析を行うとともに、各調査車両にGPSロガーを搭載し、車両の動きを記録しました。

表-1に平均積載量と積込み・荷下ろし時間および平均走行速度を示します。どちらの機械も空走行（空荷の状態の走行）より実走行（材を積んだ状態の走行）の速度が遅く、2tトラックは公道での平均速度が公道以外での速度の約2倍となっていました。また、フォワーダと2tトラックの速度を比較すると、空走行では2tトラックはフォワーダの約2.5倍、実走行では2.7倍の速度で走行していました。フォワーダは2tトラックに比べ平均積載量が多く、接地圧が低いいため悪路走行が可能です。走行速度が遅いことが欠点です。フォワーダ集搬においては運搬距離が長くなるほど生産性の低下が著しい状況が予想されました。

表-1 集搬機械の平均積載量と単位当たり積込み・荷下ろし時間および平均走行速度

	平均積載量 (m ³)	平均 積込み時間 (秒/m ³)	平均 荷下ろし時間 (秒/m ³)	平均走行速度 (km/時)			
				公道		公道以外	
				空走行	実走行	空走行	実走行
フォワーダ*1	6.7	146.2	77.2	-	-	7.8	6.7
2tトラック*1	3.2	173.5*2	7.6	42.6	38.6	19.2	18.4

※1 フォワーダは中型グラブ付き、2tトラックはダンプトラック。

※2 2tトラックの積込みは2人作業で行った時間。その他は1人作業。



図-3 フォワーダ集搬における山土場での荷下ろし状況

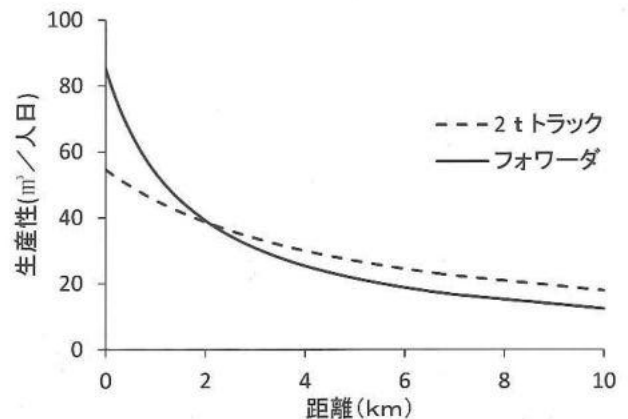


図-4 集搬作業の算定式による生産性の予測

◆集搬作業の生産性予測

これらの調査結果から生産性予測のための算定式を作成しました。

空荷で土場を出発した車両が山から木材を積んで土場へ戻り荷下ろしするまでの時間は、走行時間、木材の積込み・荷下ろし時間の合計であり、走行距離、走行速度、積載量、積込み・荷下ろし時間から算出することができます。

図-4は作成した算定式において距離を変数とした時の集搬距離と生産性の関係です。2tトラックに比べて積載量が多いフォワーダは運搬距離が短い間は2tトラックより有利な生産性を示しますが、走行速度が遅いため、距離が長くなるにつれ急激に生産性が低下していきます。この例では、運搬距離がおよそ2kmを超えるとフォワーダより2tトラックの生産性が高くなり有利になるという結果となりました。しかし、2tトラックの公道と公道以外の走行距離割合は、調査結果の平均から3対2と仮定しているため、この割合が変化すると生産性にも影響し、“2km”という生産性の交差する点も変動していきます。

◆おわりに

搬出間伐にはいくつもの工程があり作業条件も複雑なため、生産性やコストを予測するのは簡単ではありません。しかし、コストを知ることとは、作業時間や必要作業員数を知ることであるため、年間の作業計画を立てやすくなり目標にもなります。林業研究所では今後も効率的な木材生産のための研究を行っていく予定です。

イベント情報

伊勢志摩国立公園とさくら展

日時：平成29年3月18日(土)～4月2日(日)

会場：伊勢内宮前おかげ横丁大黒ホール

- ◆写真パネルの展示 (桜、神宮林、祭、空撮、島々など)
- ◆海女の木彫刻、紙粘土展示、貝工芸
- ◆体験コーナー(木の実、貝などを使ったクラフト体験)
- ◆書家のパフォーマンス
- ◆さくらトークと料理の夕べ (3月18日)
- ◆関連グッズ、書籍の販売

主催：(有)伊勢文化舎 TEL 0596-23-5166

共催：伊勢志摩国立公園指定70周年事業委員会 ほか

区分	規格			鈴鹿	松阪	伊賀	尾鷲	熊野	
素材	スギ	14~18cm	3m	並	10,000~13,000	8,000~13,000	11,000~12,000	8,000~15,000	9,000~14,000
		20~22cm	4m	並	10,000~11,000	10,000~12,000	10,000	10,000~13,000	10,000~13,000
		24~28cm	4m	並	11,000~12,000	10,000~15,000	11,000	10,000~15,000	12,000~15,000
		16~18cm	6m	並	17,000	10,000~16,000	15,000	12,000~15,000	
	ヒノキ	14~18cm	3m	並	13,000~18,000	10,000~16,000	12,000~15,000	8,000~16,000	10,000~17,000
		20~22cm	4m	並	17,000~18,000	12,000~16,000	13,000~15,000	12,000~16,000	12,000~18,000
		24cm上	4m	並	15,000~17,000	13,000~20,000	13,000~15,000	12,000~16,000	15,000~20,000
		16~18cm	6m	並	28,000~30,000	15,000~25,000	18,000~25,000	16,000~20,000	
製品	スギ	12×12cm	3m	特1	45,000~60,000	55,000~60,000	45,000~55,000		
		4.5×12cm	4m	特1上小		55,000~70,000	55,000~80,000		
	ヒノキ	12×12cm	3m	特1	65,000~75,000	50,000~70,000	55,000~75,000		
		12×12cm	6m	特1	120,000~130,000	100,000~130,000	80,000~110,000		
		4.5×12cm	4m	特1上小	230,000~250,000	80,000~120,000	80,000~150,000		

(注) 積込料、取扱手数料、消費税は含まれていません。



新刊のご紹介

木材とお宝植物で収入を上げる 高齢里山林の林業経営術

津布久 隆 著 B5判 160頁 オールカラー 定価: 2,484円 (本体 2,300円)

その里山林には、価値が眠っています! 里山の林業経営書が誕生。
手入れをして「いくらで売れる?」、その「売り方は?」から、
1本数万円以上の良質木材や人気の緑化樹、特用林産物の紹介。
「収入をいかに上げるか」をキーポイントに、明快に解説しています。



ご注文は、三重県林業技術普及協会まで! TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220

持続的な林業経営を目指して

三重県林業経営者協会

会長 速水 亨

度会郡大紀町滝原870-34 ひのき家内

イベント情報

木の遊具や玩具で遊べる ミエトイ・キャラバン

日時: 4月15日(土)
会場: 鈴鹿フラワーパーク (鈴鹿市)
「第41回鈴鹿市植木まつり」内
日時: 4月23日(日)
会場: 三重県環境学習情報センター (四日市市)
「春のキッズエコフェア」内



熊野の森から、やさしさをあなたへ
野地木材工業株式会社

〒519-4324 三重県熊野市井戸町 4185-18
TEL: 0597-85-2485 FAX: 0597-85-4056
HP: <http://www.nozimoku.co.jp/>



E2リバイブ株式会社

木質ペレット燃料販売代理店募集中!

ペレットストーブ、ボイラー、空調システム、温風機
(すべて木質燃料焚き)の販売・施工・アフターサービスを行っています。



- ・三重県産、スギ・ヒノキ間伐材を100%使用。
- ・添加物を使用していない安全な全木ペレットです。

〒519-2403
三重県多気郡大台町上三瀬 702-1

TEL 0598-82-1023 FAX 0598-82-1155



新刊のご紹介

林業現場人 道具と技 vol.15 難しい木の伐倒方法

全国林業改良普及協会 編 A4変型判 120頁カラー(一部モノクロ) 定価:1,944円(本体 1,800円)

V形カット、追いヅル伐り、クサビを使う技、ちょんまげ伐り、潰し伐り…。
 難度の高い技で「難しい木」に向き合う、達人たちの「伐倒方法」徹底紹介！
 そのほか、ヨーロッパ最大級の「KWFエキスポ林業機械展レポート」など
 注目の最新情報なども掲載。



ご注文は、三重県林業技術普及協会まで！ TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220

守りたい水 守りたい空気 そして緑の地球



JForest 松阪飯南森林組合

【本所】〒515-1411 三重県松阪市飯南町粥見5725-3

TEL.0598-32-3516 FAX.0598-32-3545

◆各支所所在地及び事業内容についてはHPをご覧ください
<http://www.mi-sinrin.or.jp/>

当組合では、テーブル、イス等の家具類も取り扱っています



公共物件や木造施設の県産材・地域産材利用をサポートします



物件対応の製材可能！納入実績多数あり！
 構造材から内装材まで、
 お気軽にご相談ください。



JAS 認定工場

三重の木認証工場

大断面集成材工場



株式
会社

オオコーチ
OOKOCHI

〒515-0063 三重県松阪市大黒田町 472

TEL:0598-26-1551

FAX: 0598-21-2676

E-mail: info@ookochi.co.jp

ホームページ: <http://www.ookochi.co.jp>

インテリアから
エクステリア等

木製品



伐採

チェーン・草刈機

お任せください!

中勢森林組合
☎059-262-3020

見積無料!!

三重県津市白山町南家城 915-1
<http://www.chusei-forest.jp>

STIHL Shop®
 ☎059-264-1070

みえ 森づくりサポートセンター

「みえ森づくりサポートセンター」は、みなさんの森林環境教育や木育、
 森づくり活動の支援を行う施設です。ご活用ください。

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所 交流館内
 TEL 059-261-1223 FAX 059-261-4153
 mail miemori@zc.ztv.ne.jp web <http://www.zc.ztv.ne.jp/miemori>





地元で育まれた品質の確かな

「**三重の木**」で家を建てよう!

三重県木材組合連合会 三重県木材協同組合連合会

会長・理事長 野地 洋 正

津市桜橋1丁目104 林業会館内 TEL 059-228-4715

守ろう地球の環境 ー緑と水を育む水源林づくりー

私たちは森林整備センターによる
水源林造成事業を進めています。

三重県水源林造林推進協議会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104 (林業会館内)
TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220



森林はさまざまな公益的機能を持っています。

三重県森林協会は、豊かで災害に強い
森林づくりを目指して活動しています。

治山・林道等の森林土木関係の標識板等の注文にも応じています。
お気軽にご相談ください。

一般社団法人 **三重県森林協会**

TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220

あなたとつくる緑の未来、さわやかな緑の環境づくりをめざす

地球温暖化防止
緑の募金で

CO₂ ダイエット!



公益社団法人 **三重県緑化推進協会**

〒514-0003 津市桜橋1丁目104番地
TEL (059) 224-9100
FAX (059) 224-9118

緑の募金ー三重緑化基金

台風・山火事などの災害による森林の損害に備え、森林保険にご加入ください。



火災



風害



水害



雪害



干害



凍害



潮害



噴火災

” 加入してよかった! ”

お問合せ・お申し込みは、お近くの森林組合または三重県森林組合連合会まで。

